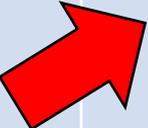
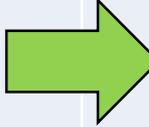
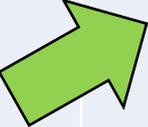
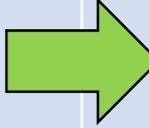
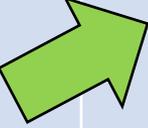
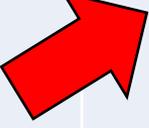
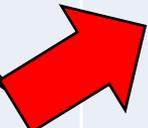


# 埼玉県の感染動向の推移について

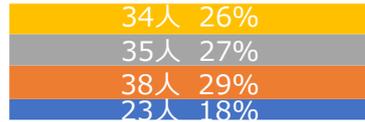
	6月30日～ 7月6日	7月7日～ 13日	7月14日～ 20日	最大値
新規陽性者数 ※ 1週間の合計	133人 	233人 	295人	295人 (7/14～7/20)
重症病床の占有率 ※ 1週間の平均	5.0% 	5.7% 	7.3%	32.6% (4/21～4/27)
陽性率 ※ 1週間の合計	3.1% 	3.4% 	4.6% <small>※7月13日～19日の数値</small>	15.1% (4/6～4/12)
東京都の感染者数 ※ 1週間の合計	696人 	1,179人 	1,533人	1,533人 (7/14～7/20)

# 埼玉県の感染動向の推移について

感染疑い経路区分

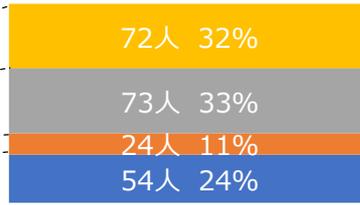
6月25日～7月1日

計130名



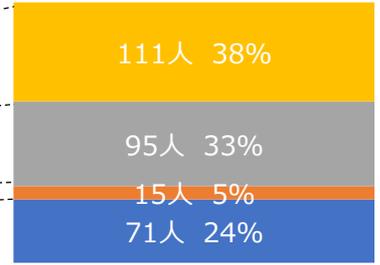
7月2日～7月8日

計223名



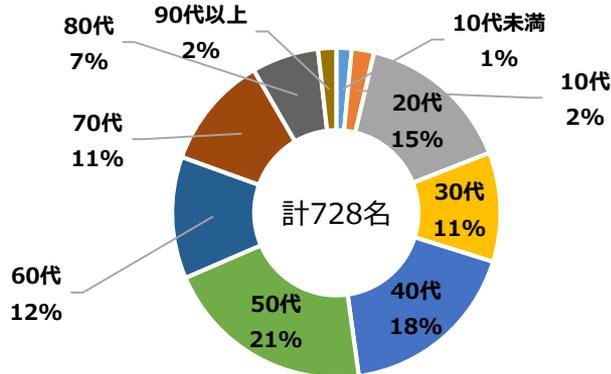
7月9日～7月15日

計292名

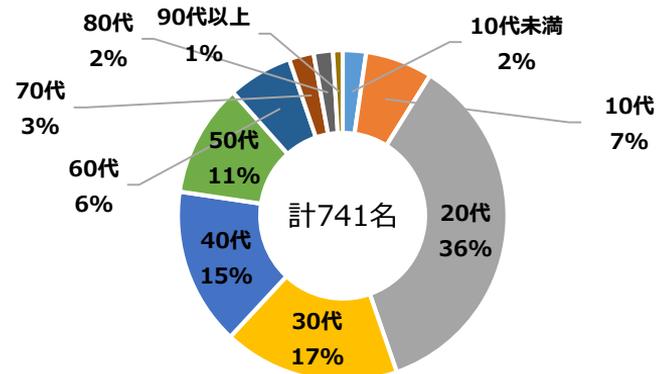


■ 都内での感染 (2次感染を含む) ■ 夜の街関連 ■ その他感染経路が推定できるもの ■ 不明

年齢構成



3月25日～4月25日



6月20日～7月20日

# 県民の皆様へのお願い

- ◆ **発熱**の症状があるなど**体調の悪い人の外出自粛**  
(医療機関への受診等を除く) (特措法第24条第9項)
- ◆ **夜の繁華街**に限らず、**感染症対策**が十分にとられていない**施設の  
利用回避** (特措法第24条第9項)
- ◆ 国及び県の**接触確認アプリ**の活用 (特措法第24条第9項)
- ◆ **密閉・密集・密接**の「**3つの密**」の**回避**
- ◆ **大人数**での**会食**の**自粛**
- ◆ 高齢者や基礎疾患がある方の**都内への不要不急の外出自粛**
- ◆ **都内への観光**は**自粛**、**旅行**や**観光**は**近場**や**県内**で

# 事業者の皆様へのお願い

◆彩の国「新しい生活様式」安心宣言及び業界のガイドラインを活用し、  
**感染症対策を徹底**（特措法第24条第9項）

◆テレワーク、時差出勤のさらなる**推進**（特措法第24条第9項）

◆キャバクラ店やホストクラブなど**接待**を伴う**飲食店**のうち、業界ガイドラインに従った**感染症対策**が徹底されていない**施設の使用停止**（7月13日午前0時から）  
（特措法第24条第9項）

◆国及び県の**接触確認アプリ**の**導入促進**（特措法第24条第9項）

◆彩の国「新しい生活様式」安心宣言の**早期策定**

◆**クラスター発生時**における**施設の従業員、利用者のPCR検査受検**

# 環境科学国際センター 20周年



かみたなだれ

加須市上種足914



平成12（2000）年 旧・騎西町（現・加須市）に開設

16（2004）年 皇太子殿下行啓

令和 2（2020）年 展示館「彩かんかん」リニューアルオープン

四つの機能を合わせ持つ  
国内唯一の環境研究所



環境を考える機会を提供する  
**環境学習機能**



広範な環境問題に対応する  
**試験研究機能**



地球規模での環境保全に寄与する  
**国際貢献機能**



環境への意識の向上を図る  
**情報発信機能**

# 環境学習：自ら考え行動する機会を提供

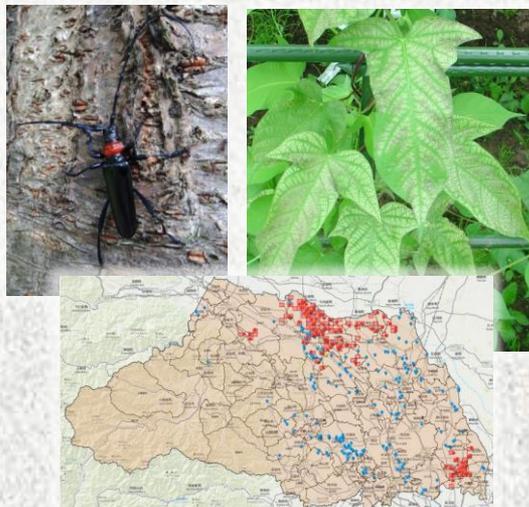


## 彩かんかん



- 環境問題を見て、触れて、感じて、考える展示館
- 2020年7月リニューアルオープン

## 身近な環境観察局



- 県民参加の環境観察ネットワーク
- 登録済み101カ所に加え調査ごとにも募集
- クビアカツヤカミキリやオゾンの植物被害状況調査などに力を発揮

## 彩の国 環境大学



- 環境科学の広範な知識を持つ地域のリーダーを養成
- 環境に関する網羅的な知識を基礎課程、実践課程で習得
- 修了者：1,818名（令和元年度末まで）

# 試験研究：環境問題を科学で解決



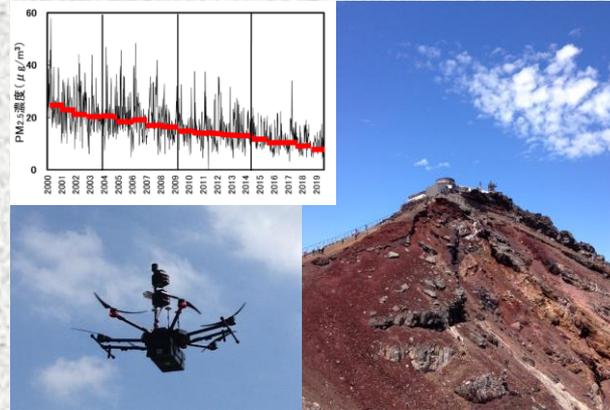
## ダイオキシン



- 開設当時最大の環境問題
- 排ガス・灰・排水などのモニタリングを20年継続し、安心安全を追求
- 環境動態の把握や汚染源解析方法を開発

基準超過の原因究明

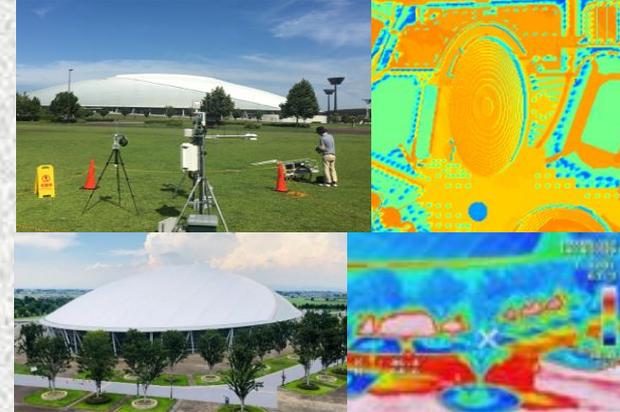
## PM2.5



- 開設から20年の通年モニタリング
- 高濃度事例の要因解明
- 富士山頂を活用し越境汚染を証明
- ドローンで大気の科学的な分布や変動を把握し、光化学スモッグ対策へ活用

R1 県内全観測地点で  
環境基準達成

## 暑さ対策



- 温暖化適応策として推進
- スパコンによるシミュレーションで効果を事前に予測し対策を実施
- 現在、熱中症予防対策などに活用するための暑熱環境観測網を構築中

H30 地域気候変動適応センターを  
設置（国内初）